

松下幸之助に学ぶ!!

文・全国PHP友の会

会友 梶浦 洋一

(徳島PHP友の会顧問)

(H/PPHAG&

『菜根譚の会』世話人)

『故きを温ねて新しきを知る』
第五回

まず最初に、突如発生したこのたびの【熊本地震】による多くの犠牲者の方々に衷心よりお悔やみを申し上げます。さらに、長引く震災で数多被災されている方や親族の方々にも心からお

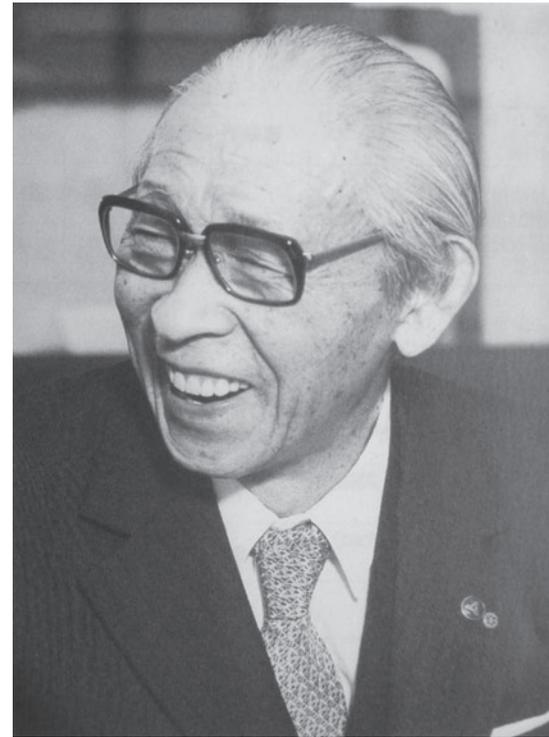
見舞いを申し上げます。

かつて東海地震や東京直下型地震の発生の際が語られたこともあったが予想が当たらず、話題にもとされていなかった新潟中越地震や阪神淡路大震災、東日本大震

災が発生した。

そして近年になり、西日本で遅くとも2030年代までに、南海トラフ地震という大地震が起こる可能性が高いとされてきていた。

ところが、この四月十四日



(木)と十六日(土)に連続発生した【熊本地震】は、活断層による新潟中越大地震に次ぐ強烈な直下型大地震で、連続的に関連する断層での地震が発生している。朝日新聞では「活断層は日本に2千以上あり、どこでも大地震が起こる恐れがある」と報じている。四国には有名な中央構造線があり活断層帯が東西に通っている。【自助！共助！公助！】虚を

突かれぬように【覚悟と気配りされた備え】が必要なようである。

真の繁栄・平和・幸福を究めるために③

さて、先月からの話に戻そう。アチーブメント(株)社長の青木仁志氏との話について(株)PHP研究所専務の佐藤悌二郎氏は次のように記述して話を結んでいる。

「青木さんとの三日間の語らいはとても刺激的なものでした。その一方で、限られた時間の中で幸之助を語るうえで欠かすことのできないものがあるにもかかわらず、取り上げられなかったテーマも多く、また十分な説明ができなかったという憾み(うらみ)が私自身残っています。それらについては別の機会に改めて披瀝(れき)できれば幸いに存じます。本書を読まれたみなさまが、希望の哲学をもとて、日々の経営に、仕事に打ち込まれ、会社を隆々と発展させ、社会に大きく貢献していられることを衷心より念じております。」

それでは両者が三日間で語り合われた内容はどのようなものであったか。

*二日目は
繁栄の哲学について

*二日目は

指導者の哲学について

*三日目は

生き方の哲学について

であった。

繁栄の哲学

「どうすれば幸せに生きられるのか」については、

松下幸之助は、若い時から『仕事を通して天分を發揮するのが人間の幸せである』と説き、『適材を適所に！』、時には『適所に適材を配置すること』を強く求めていた。

毎年、全社員からは人事配置について『自己申告書』を提出させて、人事部門に配置を吟味させ、三年続けて配置転換希望がかなえられなかった社員には、希望をかなえさせるまで推進したり、上司指導を行なった。年初恒例の『経営方針発表会』の席上で、社員に向かっ

て直接、「配置転換希望者は申し出るように」と呼びかけたりして、社員の幸せを追い求めていたことを想い出す。(筆者注記)

さて、ハワイでの話は、どのように進んだか。

仕事を通して天分を發揮するのが人間の幸せである。

●【有形の資産】より【無形の資産】が大切

青木社長は最初に、「今日は幸之助さんについて教えていただく第二目です。よろしくお願いします。」と挨拶をされて語り始めた。「私は幸之助さんのファンなので、どうすれば世のため、人のために貢献できる指導者になれるのか、どうすれば、社員、その家族、お客さま、取引先、縁ある人たちを幸せにできるのか、ずっと考え続けてきました。

幸せと豊かさ、富というものは切つても切れないものだとは思いますが、多くの人が目に見える現象、「有形資産」にとらわれてしまいます。

その一方で、私は「無形の資産」というものが存在していると思わざるを得ません。それはいままで二八年間やってきた研修を通して、二万九五〇〇人のご受講生のかたがたを注意深く観察させていただいた結果、確信したことです。

「無形の資産」とは何かといえば、ひとつは「人」だと私は思います。右肩上がりでない人生を生きている人ほど長生きで、人的な資産に恵まれています。そして「人」に対する感謝の気持ちを持っています。私は幸之助さんにご高齢になったとき、相手に対して九〇度に腰を曲げ、深々と頭を下げられている映像を見て、涙が出てきました。

まさに私が人材教育の仕事を通して伝えたかったのは、幸之助さんが最も素直に実践しようとして心を向けたこと、つまり目に見えない感謝や真心、思いやりに対して忠実に生きた生き方だつたということです。ですので、今日は幸之助さんの生

き方、考え方について徹底的にお教えいただきたいと思えます。

まず冒頭からいちばん根本的なことを聞いてしまいますが、そもそも人の幸せについて、幸之助さんはどのように考えていたのでしょうか。

これに対して佐藤専務は次のように答えている。

「幸之助は人はみな一人ひとり異なつた天分、天命あるいは持ち味ともいいますが、それを天から与えられているといっています。そして、自分に与えられた天分を存分に發揮して生きることが、人間としていちばん幸せだと思います。

ではこの天分を何によつて發揮するのかというと、人生のなかで最も元気で活力のある時期に、仕事を通じて發揮するのが望ましいと考えていました。ですから幸之助は、社員一人ひとりの持ち味や個性、つまり天分をいかに發揮させてあげるかに心を砕きつつ、松下電器の経営をしてきました。

それに付随して、幸之助は幸福の三要件をあげています。

幸之助があげる幸福の三要件

一つは自分が幸せだと思ふこと。いくら周りから「おまえは幸せだ」と言われても、本人が幸せだと思わないことには幸せではありません。

二つ目は、本人がどんなに幸せだと言いつても、周りからそう見えなければ幸せではない。周りもそれを認めないといけないということだ。

三つ目は本人が幸せと感じ、周りの人も「この人は幸せだよ」と認めるだけでなく、幸之助流にいうと、真理や『自然の理法』(*宇宙や大自然に厳然と存在する人間の意志や意欲を超えた法則、真理のこと)にかなっていないといけないということだ。

そんな大げさに考えなくても、世間の常識に従っていればいいではないか、という見方もありますが、常識は

時代によって変わりますから、真理や自然の理法からはずれていることもあり得るわけです。やはり普遍的な原理原則にかなっていることが幸福の条件になります。逆にいえば、この三つがそろっていけば、あとはもう何をしても幸せだといふ、そういう言い方もできるでしょう。

ともかく、自分に与えられた天分を發揮して生きられるのが、人間としての幸せだというのが幸之助の考え方でした。」

青木社長は尋ねる。「そこに経済的なものはからまないんですね？」

佐藤専務の答えは、「自分の天分、持ち味、適性を生かすことができれば、おのずと生活していけるだろう。経済的なものはそれに伴って生まれてくるだろうということだ。ですからたんにお金持ちになるとか、社会的名誉を得るといふことは、幸之助に言わせれば、人間の本当の幸せではありません。」

(つづく)